

大会結果

1位	荒砥A	1時間 19分 16秒
2位	鮎貝	1時間 23分 50秒
3位	十王	1時間 24分 06秒
4位	鷹山	1時間 24分 28秒
5位	東根	1時間 24分 32秒
6位	蚕桑	1時間 29分 01秒
OP	白鷹町役場	1時間 26分 38秒
OP	荒砥B	1時間 31分 24秒

町誕生70周年記念地区対抗駅伝競走大会は10月13日、町内10区間を結ぶ総距離23・1キロのコースで行われました。今回は、70周年記念ということで、荒砥Bチームと白鷹町役場チームがオープン参加で出場。8チームがそれぞれ地域のキズナをタスキに込めて走り抜きました。

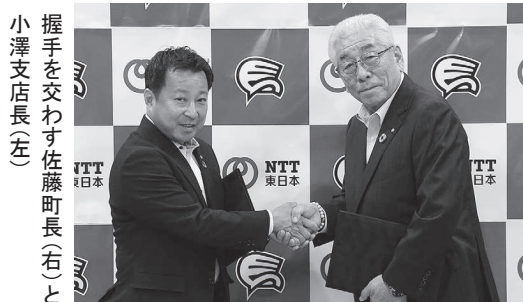
順位が目まぐるしく変化する激闘の展開となった中、荒砥Aチームが執念の走りをみせ、2連覇のゴールテープを切りました。

地域のキズナをタスキに込めて——
白鷹町誕生70周年記念地区対抗駅伝競走大会

《各区間 区間賞一覧》

〔新〕は大会新記録

区間	距離 (キロ)	走者(チーム)	タイム
1	1.9	鈴木 悠(荒砥A)	6分17秒〔新〕
2	2.5	石田 善一(十王)	8分53秒〔新〕
3	0.7	松木 達(蚕桑)	2分12秒
4	3.3	佐藤 銀河(十王)	10分34秒〔新〕
5	3.6	藤原 優希(役場)	11分04秒〔新〕
6	0.9	志田 心哉(東根)	3分02秒
7	2.1	竹田実乃里(荒砥A)	8分00秒
8	3.0	堀内 郁哉(役場)	9分11秒
9	3.0	山本 築(荒砥A)	9分51秒
10	2.1	鈴木 友幸(十王)	6分28秒〔新〕



握手を交わす佐藤町長(右)と小澤支店長(左)

9月30日、町のさまざまな取組にデジタル技術を活用するため、東日本電信電話株式会社山形支店(小澤一仁支店長)と「DX(デジタルトランスフォーメーション)推進に関する連携協定」を締結しました。

会社が持つデジタル化のノウハウを、町が抱える課題の解決や行政サービスの向上に生かしていくことを目的としています。

今後、デジタル技術やデータ活用により町民サービスの質の向上が実現できるような取組を進めていきます。

行政サービスにデジタル技術を活用 「DX推進に関する連携協定」を締結

10月29日に白鷹町農業委員会(小林孝次会長)より、町に対し「令和7年度白鷹町農業農村振興施策に関する意見書」が提出されました。

担い手への農地の利用集積・集約化についての要望をはじめ、新規就農

者の確保と体制づくりに対する要望、有害鳥獣対策についての要望、また近年価格が上がり続けている農業用資材や原油等の価格高騰対策支援など将来を展望した施策展開の内容が盛り込まれています。

地域農業の振興・発展のため
農業農村振興施策に関する意見書を提出



小林会長(右から2人目)より意見書が手渡されました



白鷹町長選挙 佐藤誠七町長が再選

佐藤町政 5 期目スタート



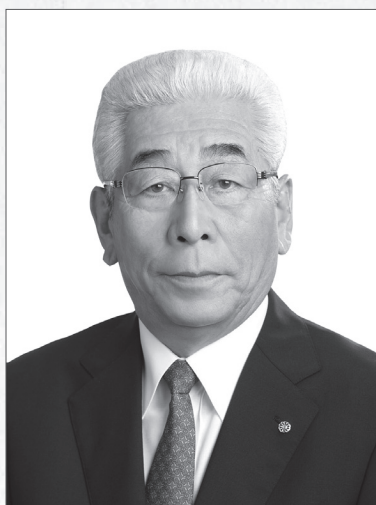
10月21日、当選証書を付与されました

任期満了に伴う白鷹町長選挙は、10月15日（火）に告示され、現職の佐藤誠七さん（73歳・十王）以外に立候補の届け出がなかったため、無投票で当選を果たされました。引き続き、5期目の町政を担うこととなります。

佐藤町長は、平成20年に初当選。これまでに医療費無料化の高校生（18歳）までの拡充や地区公民館のコミュニティセンター化、まちづくり複合施設の整備、白鷹中学校の開校などを実現してきました。

「打てば響く町政」を掲げ、第5ステージへと進んだ佐藤町政。子育て・教育のさらなる充実と働く場所の確保、林業の再生など、持続可能なまちづくりを重点に置いた新たな町政のスタートが切られました。

就任の ごあいさつ



白鷹町長 佐藤 誠七

このたびの町長選挙におきまして、引き続き5期目の町政を担わせていただくこととなりました。改めてその責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

町長としての16年間を振り返り、引き続き町民の皆さまとともに取り組みあげる「共創のまちづくり」をさらに進める決意を新たにしたいところであります。

今後4年間の具体的な取組といたしましては、令和7年度から始まる第6次白鷹町総合計画後期基本計画のもと、より一層子育て支援や移住・定住施策、産業振興に注力しながら、最重要課題である人口減少対策に向け、子育て支援住宅の整備や新産業団地の造成等を推進してまいります。

また、長年の課題となっている国道348号の再整備につきましては、安全性確保を第一義的な目的とし、関係機関とともに具体的に一歩ずつ取組を進め、県都・山形市へのアク

セス向上による、本町そして西置賜地域の発展につなげてまいりたいと考えております。

さらに、「緑の循環システム」を前に進め、地元の方々から国際規模の民間企業に至るまで幅広く関わり合いながら、航空レーザ測量による森林境界の明確化や町産木材の活用、再造林のあり方の検討など、町ぐるみで、植林、育林、伐採、利用までの総合的な取組を行ってまいります。

持続可能なまちを形成するには、そこに住む人、関わる人々の育成が重要という思いから、引き続き「人への投資」を重点に据え、暮らし・学び・働ける環境を整えつつ、人材育成や多様な人材の還流による好循環を生み出してまいります。

町民の幸せと本町の発展に向け、町民の皆さまの声をお聞きしながら、次世代へ誇れるまちづくりに取り組んでまいりますので、一層のご協力をお願い申し上げます。